

男女共同参画と結婚応援、自然体験などについてのアンケートの結果報告

このたびは、「男女共同参画と結婚応援、自然体験などについてのアンケート」にご協力いただきありがとうございました。

アンケート結果を下記のとおり報告いたします。

I アンケートの実施概要

(1) 実施期間

平成30年2月2日（金）～平成30年2月18日（日）

(2) 回収状況

対象者数 1,161名

回答者数 745名

回答率 64.2%

(3) 回答者の属性

・性別【男性】366名、【女性】379名

・年代別

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1人	45人	152人	210人	168人	132人	37人
0.1%	6.0%	20.4%	28.2%	22.6%	17.7%	5.0%

・地域別

北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
363人	212人	78人	72人	20人
48.7%	28.5%	10.5%	9.7%	2.7%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

II アンケート結果

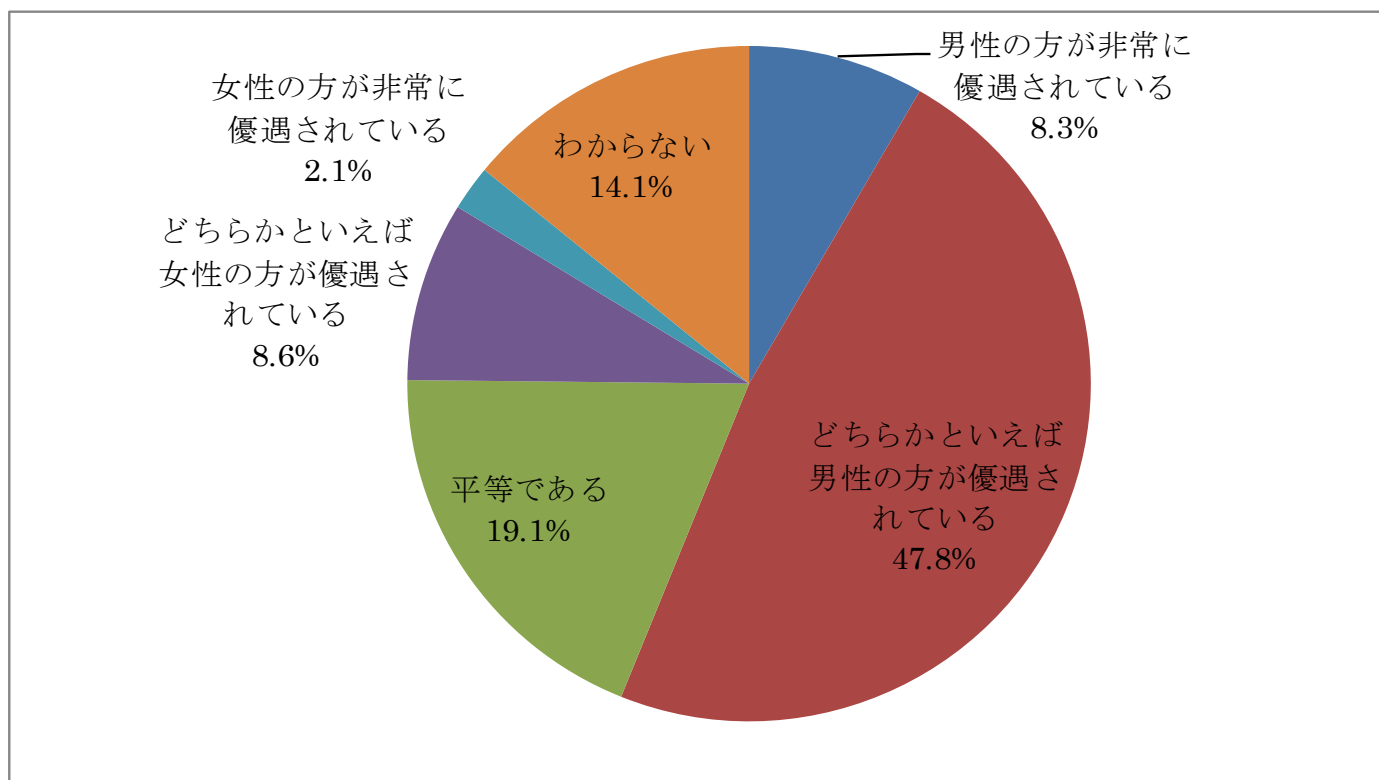
○「男女共同参画に関するアンケート」(環境生活部ダイバーシティ社会推進課)

一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍推進の取組を効果的に進めるため、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。

Q1～Q2は、社会全体における男女平等についての設問です。

Q1 男女平等について (社会全体)

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



「平等である」と回答された方の割合は19.1%であり、昨年の22.1%より3ポイント減少しました。また、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答された方の割合は56.1%で昨年の56.6%より0.5ポイント減少したものの、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答された方の割合は10.7%で昨年の9.1%より1.6ポイント増加しました。

Q2 男女平等について (理由)

「平等である」、「わからない」以外を選択された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、次のようなご意見が多くありました。

(「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)

- ・政治家や会社の経営者・管理職など意思決定に関わる職業は、圧倒的に男性が多い。
- ・育児・家事・介護は女性がするものとの風潮が残っており、職場においても女性は時間的制約が大きい。

- ・男性のほうが女性に比べ給料が高く、昇進のスピードも速い。
- ・仕事の相手に女性というだけで信頼してもらえず「男性に代わって」と言われることがある。
- ・「嫁のくせに」「女のくせに」と、家庭でも職場でも男性より上の立場に立つことが許されない雰囲気が残っている。

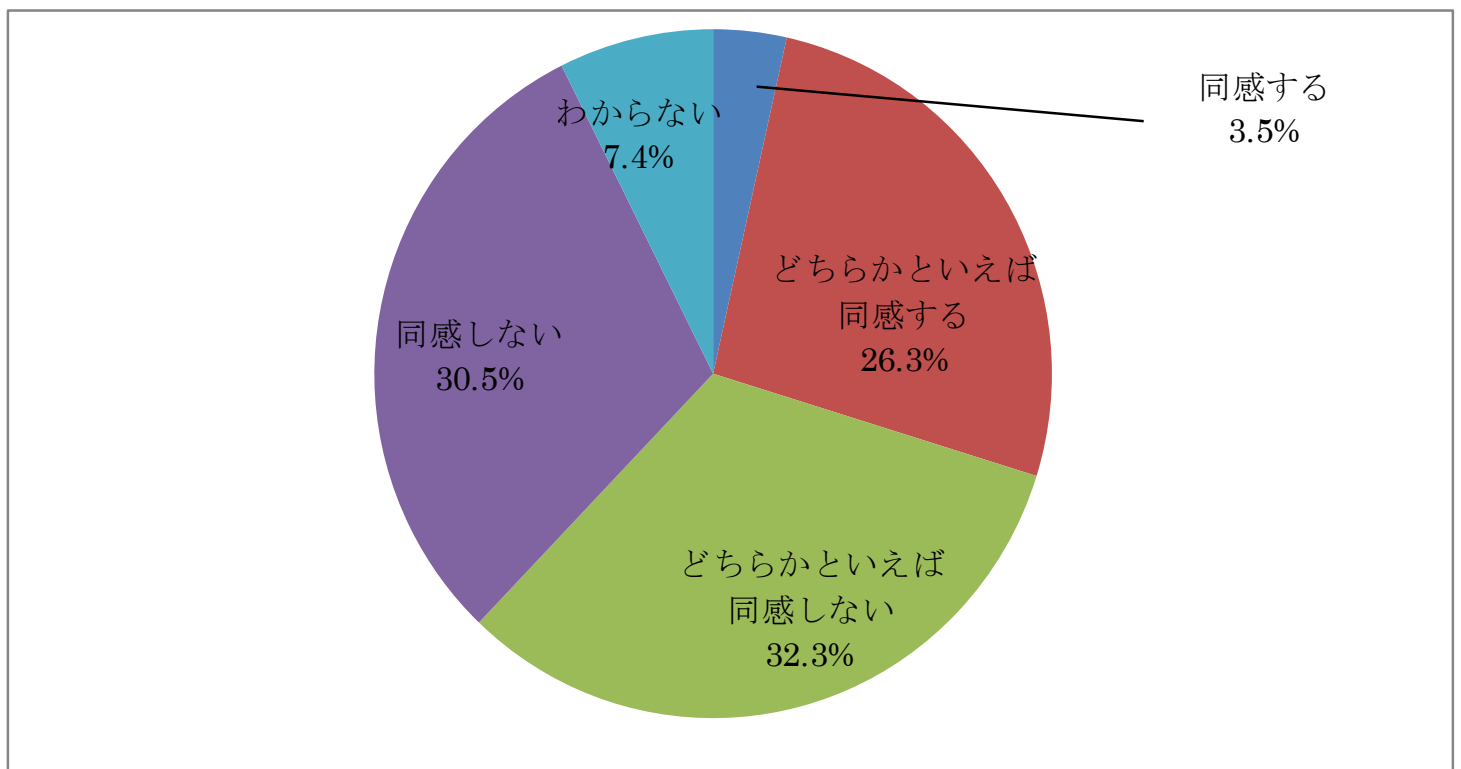
(「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)

- ・レディースデイ、女性専用車両など女性限定のサービスはあるが、男性限定のものはない。
- ・女性は堂々と育児休業をとったり、子どもの用事で仕事を休んだりできるが、男性が休める雰囲気はない。
- ・女性というだけで、昇任面でひいきされている。
- ・女性は夜間業務や過酷な業務を免除されている。
- ・「専業主婦」は存在するが、「専業主夫」という選択肢は殆どない。

Q 3は、固定的役割分担意識や性別意識についての設問です。

Q 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。

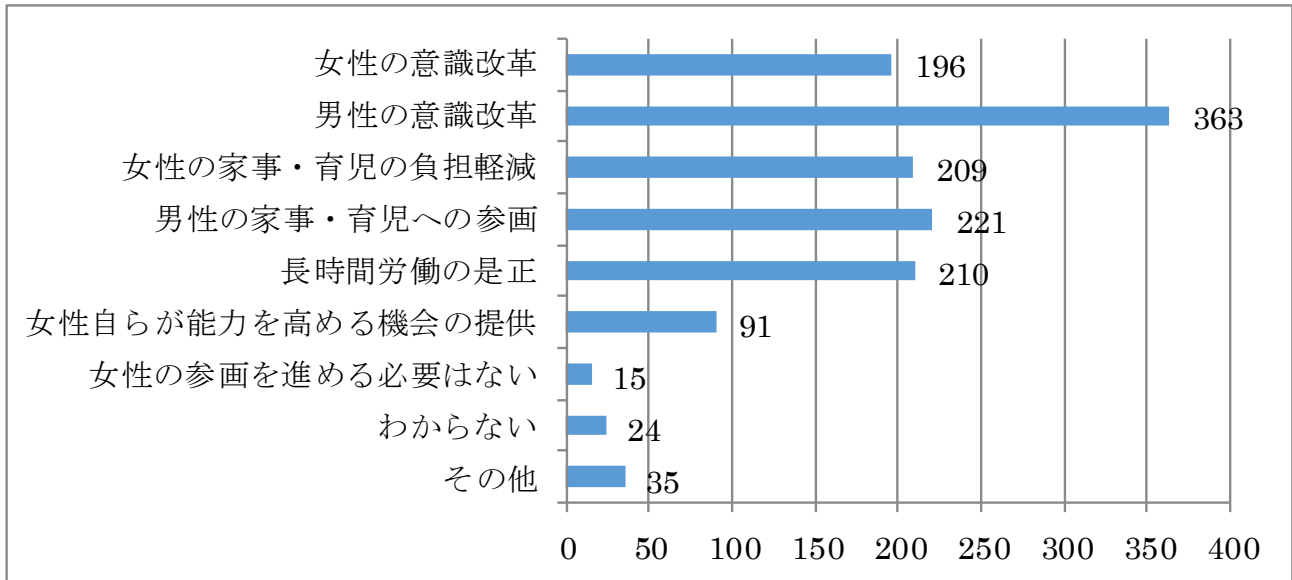


「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない (= 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」、「どちらかといえば同意しない」と回答された方の割合は62.8%で、昨年の55.7%と比較し7.1ポイントと大幅に増加しました。逆に「同意する (= 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成)」、「どちらかといえば同意する」と回答された方の割合は29.8%で、昨年の37%から7.2%減少し、固定的役割分担意識が改善されてきていることが窺えます。

Q 4は、男女共同参画の推進についての設問です。

Q 4 男女共同参画の推進について

今後、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つまで回答可)

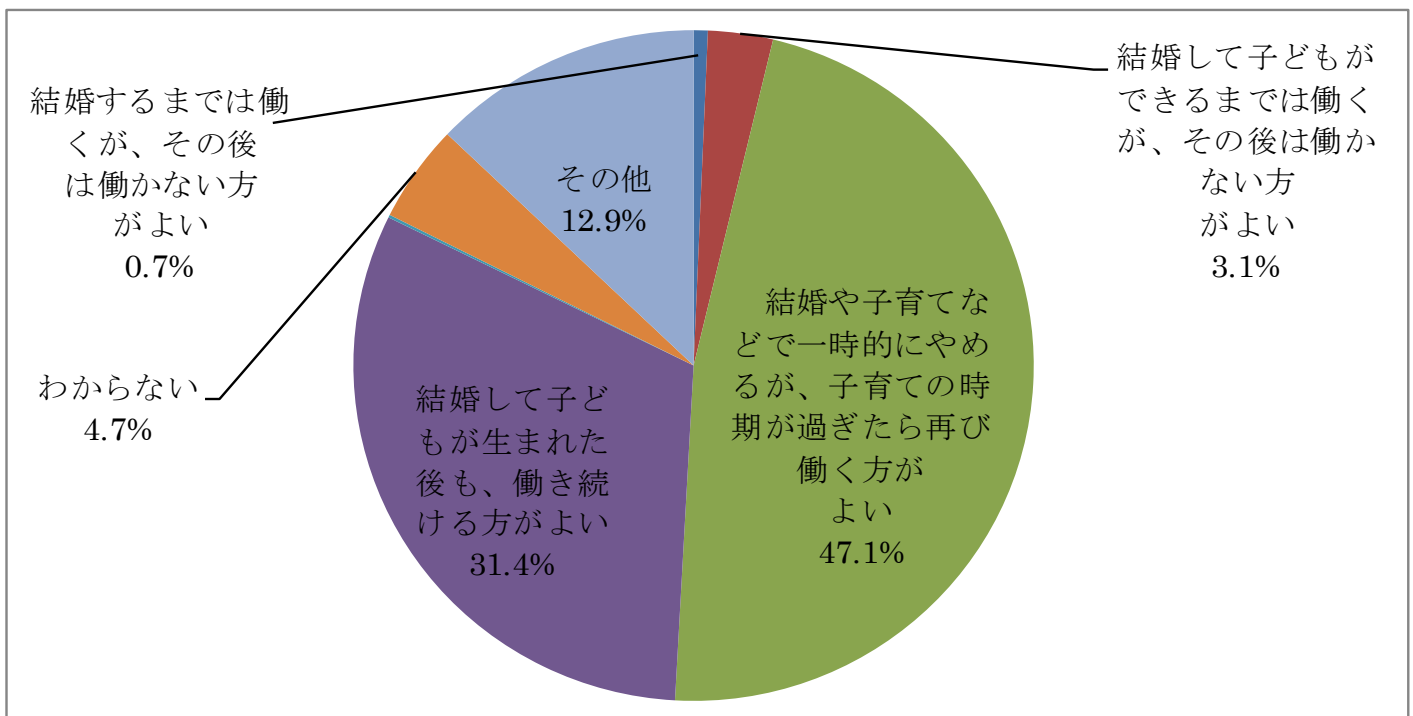


今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革 (363件)」、「男性の家事・育児への参画 (221件)」、「長時間労働の是正 (210件)」が上位を占め、女性より男性側の対応を求める声が多く聞かれました。

Q 5～Q 6は、女性の働き方についての設問です。

Q 5 女性の働き方について (考え方)

あなたは、女性が働くことについて、どのようにお考えですか。

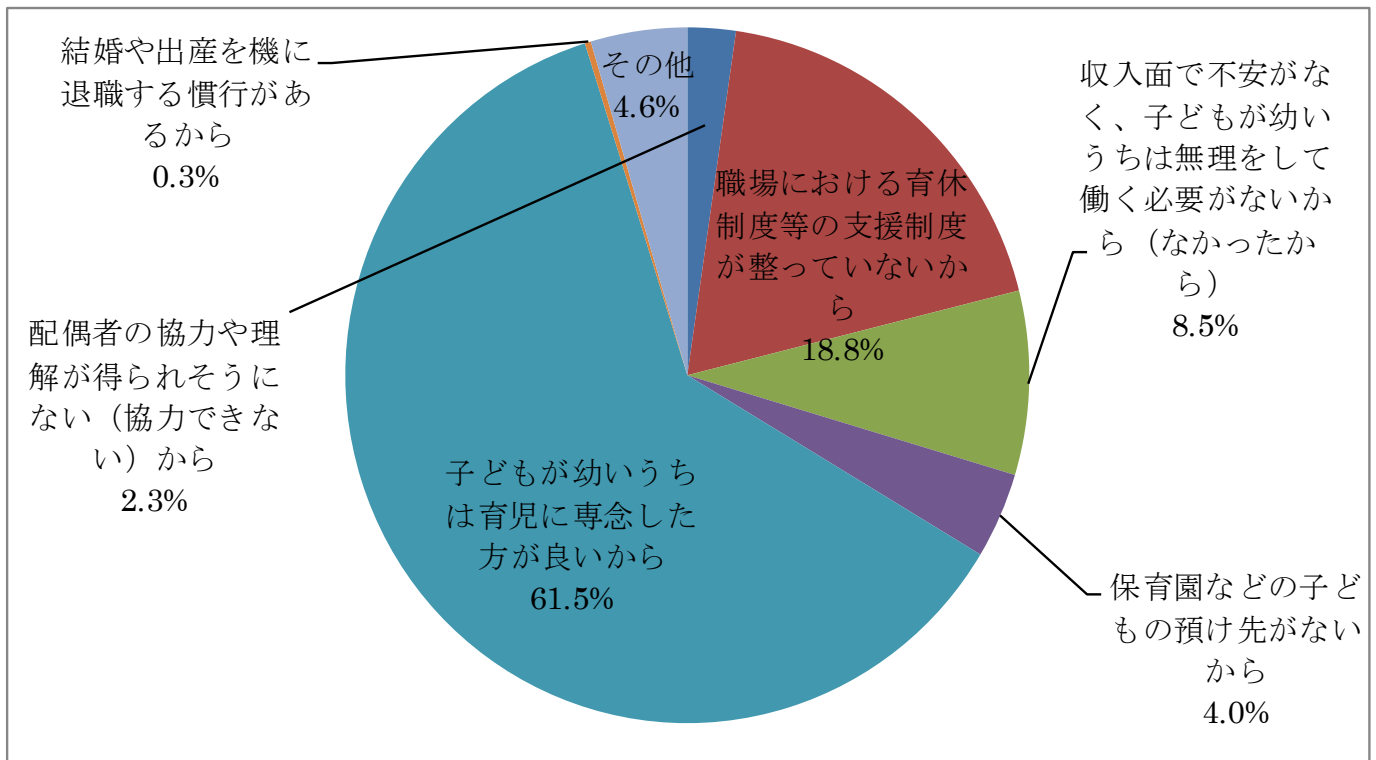


女性の働き方（考え方）については、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」と回答された方が依然として最も多いのですが、その割合は47.1%と、昨年の54.8%より7.7ポイント減少しました。逆に「結婚して子どもが生まれた後も、働き続ける方がよい」と回答された方の割合は31.4%と、昨年の23.9%より7.5ポイント増加しました。固定的役割分担意識とともに、女性の働き方に関する意識も変化してきていることが窺えます。

このほか、「その他」の回答の中には、「働き方は個人の自由でよい」「ライフスタイルに合わせて選択できるような環境が必要」等の意見がありました。

Q6 女性の働き方について（理由）

Q5で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」を選択された方におたずねします。なぜ、そのように考えますか。



昨年に続き「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念した方がよいから）」を選んだ方の割合が最も高い結果となりました。その値は61.5%と昨年の62.1%より0.6ポイント減少したものの、依然として女性が仕事を中断する大きな要因となっています。

次に「職場における育休制度等の支援制度が整っていないから」が18.8%と続きますが、その値は、昨年の21.0%から2.2ポイント減少し、支援制度が徐々に整いつつあることが窺えます。

○「結婚応援についてのアンケート」(健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課)

●みえの出逢い支援に対する認知度について

Q7 県では結婚を希望する方への支援として、結婚に対するポジティブなイメージを高める取組(#思いやりアクション)などに取り組んでいます。県がこのような結婚支援に取り組んでいることを知っていますか。

Q8 県では結婚を希望する方への支援として、「みえ出逢いサポートセンター」を設置しています。みえ出逢いサポートセンターを知っていますか。

みえの出逢い支援の取組について、24%の方が「知っている」、「聞いたことがある」と回答した一方で、76%の方が「知らない」と回答している。(図1)

また、みえの出逢い支援の一環として開設している「みえ出逢いサポートセンター」についても、80%の方が「知らない」と回答しており(図2)、引き続き、みえの出逢い支援について皆さんに知っただく取組が必要です。

図1 みえの出逢い支援の認知度

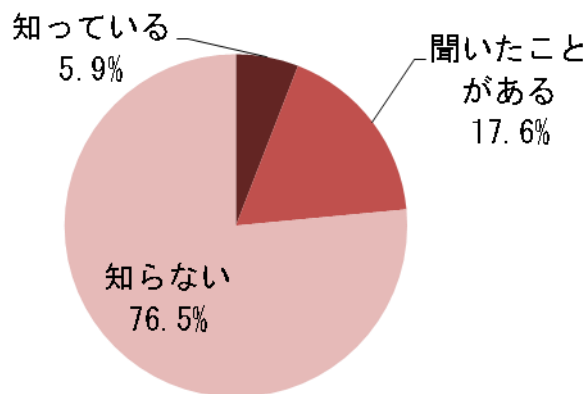
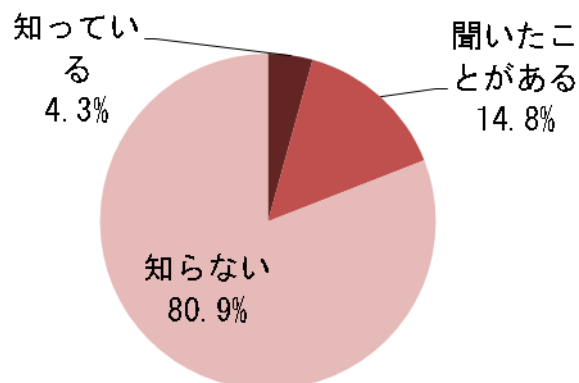


図2 みえ出逢いサポートセンターの認知度

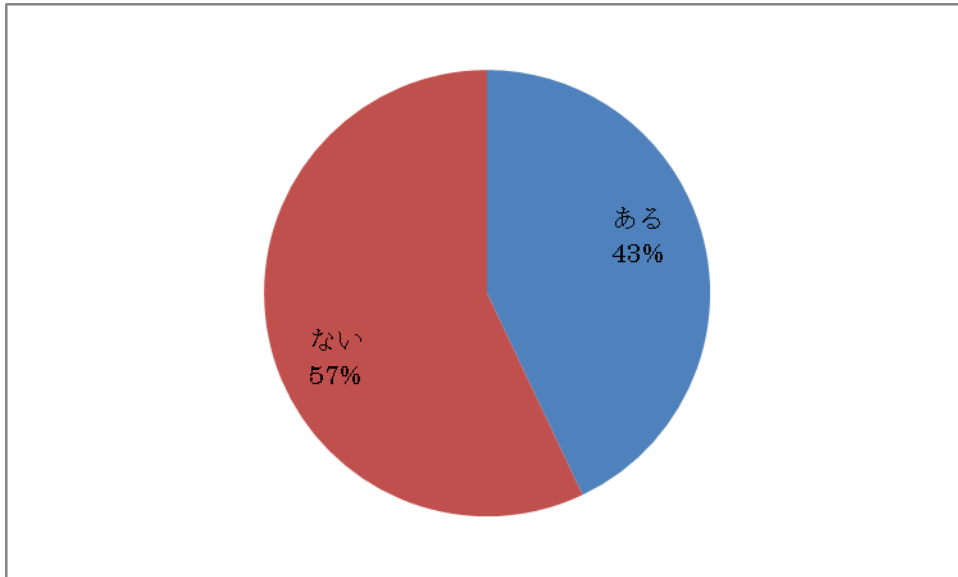


○「自然体験についてのアンケート」（農林水産部農山漁村づくり課）

●自然体験の経験について

Q 9 あなたは、三重県内で自然体験の経験がありますか。

三重県内で自然体験の経験がない方が半数以上を占めました。三重県では、海・山・川、豊かな自然を生かした自然体験が楽しめますので、自然体験を行う方が増えるよう、県内の自然体験の魅力を様々な方法で発信していきたいと考えています。

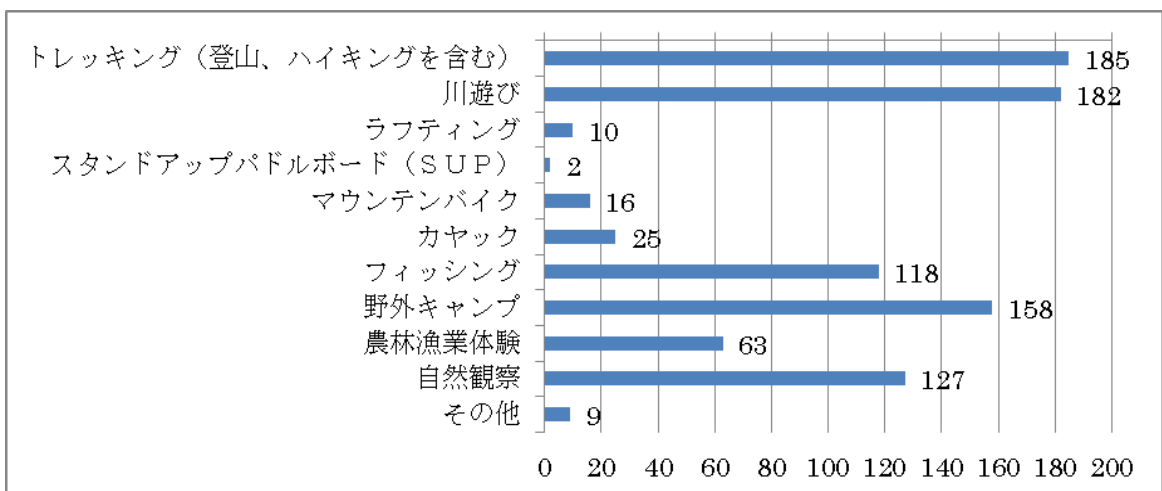


●自然体験の内容について

Q 10 どのような自然体験でしたか。

三重県内で自然体験の経験がある方にその内容をたずねたところ、以下のグラフのとおり、「トレッキング」や「川遊び」が上位となりました。

回答が少なかった体験については、認知度の向上とともに、県内の身近な場所で体験ができることを発信していきたいと考えています。

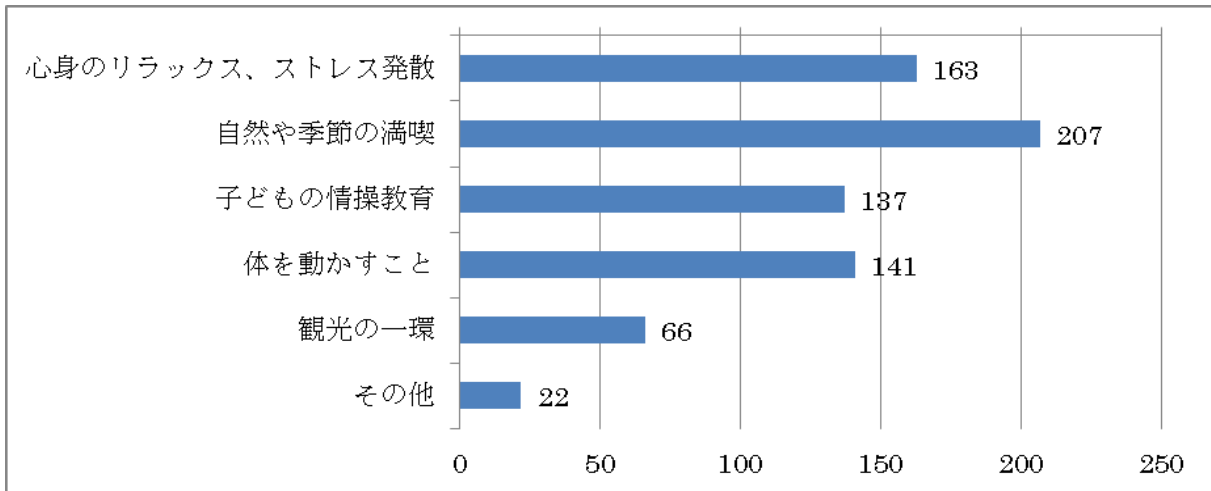


●自然体験の目的について

Q 1 1 自然体験を行った目的は何ですか。

三重県内で自然体験の経験がある方にその目的をたずねたところ、以下のグラフのとおり、「心身のリラックス、ストレス発散」や「自然や季節の満喫」が上位となりました。

自然体験には、その知恵や技術を生かした災害対応力の向上や環境意識の醸成などの効果もあります。そういった観点からも自然体験の情報を発信していきたいと考えています。

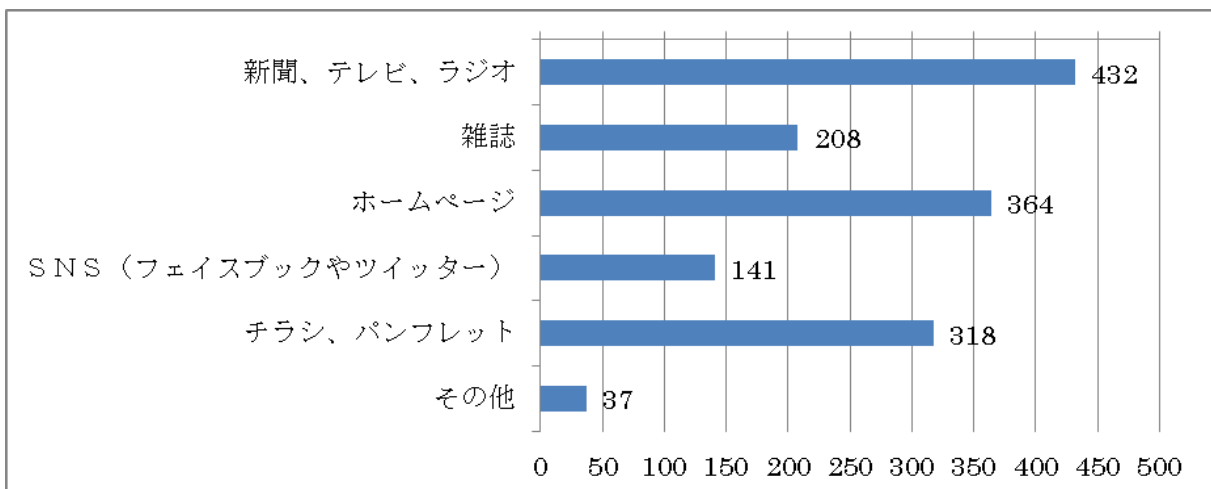


●自然体験の情報入手について

Q 1 2 自然体験についての情報を得る場合、その手段を用いますか。

自然体験の情報を入手する手段についてたずねたところ、以下のグラフのとおり、「新聞、テレビ、ラジオ」や「ホームページ」が上位となりました。

このほかのメディアを利用している方も多いため、さまざまな手段を用いた情報発信が必要と考えています。

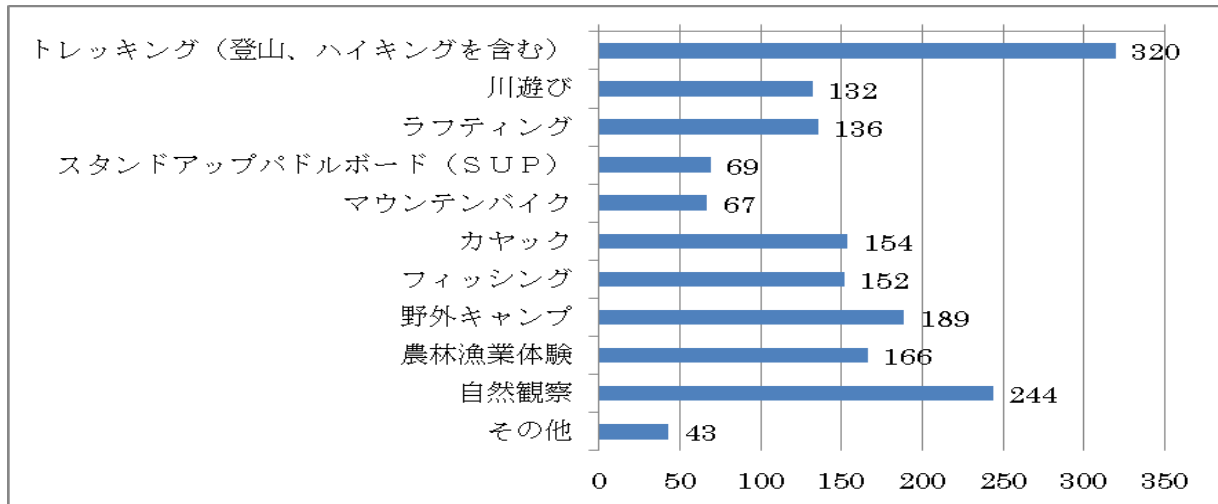


●自然体験の希望について

Q13 今後やってみたい自然体験は何ですか。

今後希望する自然体験についてたずねたところ、以下のグラフのとおり、「トレッキング」「自然観察」や「野外キャンプ」が上位となりました。

自然体験を行っていただくには、情報を提供するだけでなく、実際に自然体験にふれていただく機会を作ることが必要であり、そうした趣旨のイベント開催などの取組を進めたいと考えています。



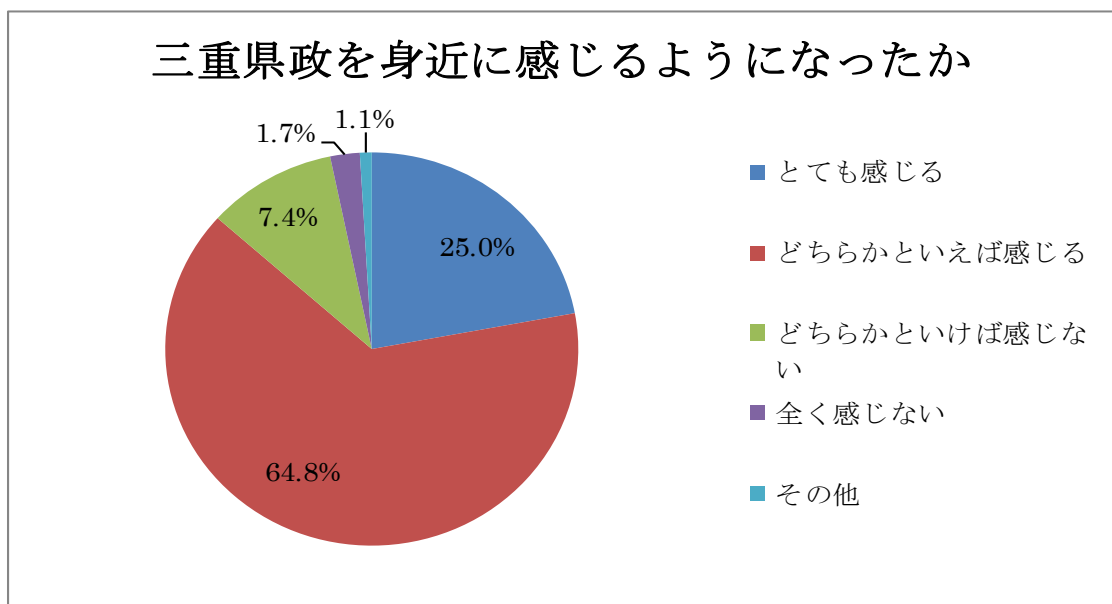
○e-モニターアンケートに参加した感想やご意見（戦略企画部広聴広報課）

Q14 e-モニターアンケートに参加したご感想について

（三重県政を身近に感じるようになったか）

e-モニターアンケートに参加して、県政を身近に感じるようになったかをお尋ねしたところ、「とても感じる」「どちらかといえば感じる」を選んだ方が、89.8%となり、ほとんどの方が県政を身近に感じるようになったとお答えいただきました。

一方、「どちらかといえば感じない」「全く感じない」を選んだ方の割合は、9.1%となっています。モニターの皆さんが、県政に興味を持ち、県政を身近に感じていただけるアンケートとなるよう引き続き努めてまいります。



Q15 e-モニターアンケートに対するご意見について（自由記載）

1年間、e-モニターアンケートにご参加いただいた経験をもとに、感じたことやご意見、ご提案について自由にお答えいただきました。

476名の方から感想やご意見、ご提案をいただきました。本当にありがとうございます。

多くの方から、「県の取組や活動等に関心を持つようになった」、「知らないことが多く、知識を高めることができた」、「県の広報誌やホームページを見るようになった」など、アンケートを通して、県政を身近に感じるようになったとの感想をいただきました。

また、「県政に役立っているのか」、「反映されたことや改善されたことについて具体例を示してほしい」など、アンケートの結果報告に関するご意見や、「選択肢を広げてほしい」、「毎年、同じ内容の質問がある」など、アンケートの内容に関するご意見もいただきました。

皆さんからいただきましたご意見、ご提案を踏まえたアンケートの作成や、アンケート結果の報告となるよう努めてまいります。